

廃棄物対策課コーナー

資源になれなかったペットボトル



ラベル・キャップをはずし、中をきれいに洗いましょう。

ごみステーションに残された、資源ごみの袋。ペットボトルはきれいに分別されているように見えますが、残念なことに、ラベルとキャップがはずされていないため、資源として回収されませんでした。

対馬市ではペットボトルのリサイクル(再利用)に取り組んでおり、ラベル・キャップをはずすこと、中をきれいに洗って水気を切ることをルールとしています。家庭美化、周辺環境の美化のため一緒に取り組みましょう。

なぜ、キャップ・ラベルをはずすのでしょうか？

ペット(PET)ボトル本体はプラスチックの一種であるポリエチレンテレフタレート=PETが原料です。同じプラスチックですが、キャップ、ラベルの原料とは異質の原料です。

回収されたペットボトル本体はマテリアルリサイクル(原料として再生すること)され、再びペットボトルとして生まれ変わります。

マテリアルリサイクルは、同じ素材であることが第一の条件で、キャップやラベル部分が混入しているとコストが高み、リサイクルの支障となります。

ひとり一人の少しの手間がエコ(環境に優しい)活動になります。皆様のご協力をお願いします。

対馬市廃棄物対策課 0920(53)6111

「わがまち再発見！」

シリーズ文化財の紹介
国指定史跡「金石城跡」

前回2回にわたり紹介した美津島町の金田城跡に続き、今回は敵原町にある「金石城跡」と、その背景について説明します。

もと大宰府の役人だった

宗氏が作った金石城

敵原は江戸時代には対馬を治める藩主の宗氏が住む城下町でした。宗氏は、もとは大宰府の官人(役人)でしたが、入島して在庁(地元有力者で役人になった者)の阿比留氏にかわり島主となりました。

仁位や佐賀にいた宗氏は応仁2年(1468)に敵原の中村に屋形を建て政治にあたるようになりしました。中村に来て4代のち、14代将盛は国主になった

大永6年(1526)に現在の池神社付近に移り、「池の屋形」を作りました。

しかしわずか2年で一族の内紛によって焼失し、逃れた将盛は清水山山ろくの金石原にふたたび屋形を作りました。これが「金石屋形」です。21代義真が藩主だった寛文5年(1665)

に屋形を広げ、城壁などの整備を進め「金石城」となりました。

金石川に沿って敵原幼稚園からプール、グラウンドや体育館がある一帯が城の範囲です。

ほかにも同じ義真が建てた「棧原城」や19代義智の時代の「清水山城跡」など、敵原は多くの屋形や城の跡が残る全国的にも珍しい土地であることが分かります。



対馬市教育委員会 文化財課
0920(54)2341

現在の金石城跡

人権相談のお知らせ

12月4日(月)から10日(日)までは人権週間です。

法務局と人権擁護委員協議会は人権を守るため皆さまの身近なところで活動しています。

家庭内のもめ事や隣近所とのトラブルなど皆さまの悩みや心配ごとを相談してみませんか？

秘密は厳守されますので、お気軽にご相談ください。

県内一斉無料電話相談

日時/12月10日(日)

9時~18時

フリーダイヤル

0120(781)783

特設人権相談所開設

「敵原・美津島地区」

日時/12月3日(日)

13時~17時

場所/つしま図書館視聴覚室

「上県・上対馬地区」

日時/12月4日(月)

10時~15時

場所/上対馬総合センター

「豊玉・峰地区」

日時/12月5日(火)

10時~15時

場所/豊玉文化会館

問い合わせ先

長崎地方法務局対馬支局

0920(52)6463